CASE REPORT

i-Reporter

導入事例

クライアント・製品別の作業時間の分析に要する時間が15日から2～3分に短縮されたi-Reporterの活用方法

（株式会社モクラス）

CIMTOPS

Copyright © 2024 CIMTOPS Corporation.

CASE 4

クライアント・製品別の作業時間の分析に要する時間が15日から2〜3分に短縮されたi-Reporterの活用方法

株式会社モクラス（住宅収納部材・住宅内装部材）

CASE REPORT

香川県三豊市の住宅収納部材・住宅内装部材製造会社、株式会社モクラス。100年以上に渡って木材加工業を営み、住宅内装建材を製造する老舗のメーカーだ。元々は木材の販売から始まったが、現在では建材メーカーをクライアントにした建材加工業が主な仕事となっており、建材メーカーから送られてくる図面に基づいて製品を製造している。

i-Reporterを導入した目的は、日常業務の課題となっていた「膨大なデータ入力と集計作業」の解消。i-Reporterの導入によるデータ入力や集計作業やデータの自動化の成果で、従来は15日ほどかかっていたデータ集計作業を2〜3分まで短縮させることに成功している。

USER'S VOICE

代表取締役社長
矢野 太一氏

当社では、様々なお客様の製品を加工して出荷しています。効率化や品質向上のためお客様ごとに製品の生産性を分析しようとするものの、昔ながらの紙帳票による管理には多くの課題がありました。時間をかけて分析しても一部のメーカーの一部の製品ごとの作業時間しか把握できず、Excelへの転記や集計作業にも時間がかかり入力工数が膨大であったり、入力ルールが守られない、入力自体の間違いが発生するなどの問題を何とかしたいという思いを抱えていました。

i-Reporterであれば精度の高い集計ができ生産性も向上できるのではないかと考えたのが導入のきっかけでした。

INTERVIEW

YouTubeでインタビュー動画を公開中！実際の活用事例や効果について教えていただきました。

NEXT

作業時間や入力ミスの削減に成功！
i-Reporterでさらなる顧客満足度の実現へ

抱えていた課題・導入後の効果・今後の展望…詳細は次ページへ ▶

Copyright © 2024 CIMTOPS Corporation.

効果

導入前		
月毎のメーカー別・製品別の作業時間を出力し転記作業やデータを集計するのに合計15日ほど必要	集計・分析に時間がかかるため一部のメーカーや製品の作業時間しか把握できない	作業者が作業時間を切り上げて記入するなどの問題や入力ミスが発生
i-Reporter導入後		
i-Reporterに入力するだけで容易に集計完了！分析の所要時間を2〜3分に短縮	**メーカーごと、製品ごと、工程ごとの平均作業時間の推移を可視化できるように**	**開始時に指令書の二次元バーコードを読み込み作業開始時刻を自動記録！入力ミスを防止**

帳票作成担当
増田 磨美 氏

工場現場班長（2班）
國重 健司 氏

工場現場班長（1班）
近藤 祐介 氏

現場の声

これまで各工程の生産指示の際には「指令書」という紙帳票を日々作成して現場に配布していました。この「指令書」に二次元バーコードを埋め込み、**i-Padとi-Reporterの組み合わせ**で運用する方法を導入しました。

具体的には、作業者が作業開始時に各指令書の二次元バーコードを読み込み、作業が終了した時点でファイルを転送することで**作業開始・終了時刻の自動記録**が可能になっています。これにより正確な作業時間の計測ができるようになり、作業時間の短縮が目に見えて確認できるようになりました。**作業時間の「見える化」により社内で業務効率化の取り組みを行う際の指標としても活用できています。**

初期のトライアル中に導入したiPadは4〜5台でしたが、1人1台という社長の方針が出たことで、導入後の変化がさらに大きくなったように思います。

現在、弊社では現場作業者が「作業時間の入力」、「設備の点検」、「測定器の点検」、「5Sパトロール」の4つの場面でi-Reporterを使用しており、**点検表の捺印レスやペーパーレス化**に活用しています。

現場の声

i-Reporter導入によりデータを集計する工数が激減し、記録の精度も向上しました。導入前は、月ごとのメーカー別、製品別の作業時間を出力して転記作業やデータの集計をまとめるのに合計15日ほど要していましたが、導入後は内容を入力するだけで容易に集計できるように。全メーカー・全製品の集計が可能になりました。

記録の他にも効果があり、**コミュニケーションツールとしても役立っている**と感じます。

データ分析担当
山口 昭文 氏

i-Reporter導入の経緯と今後の展望

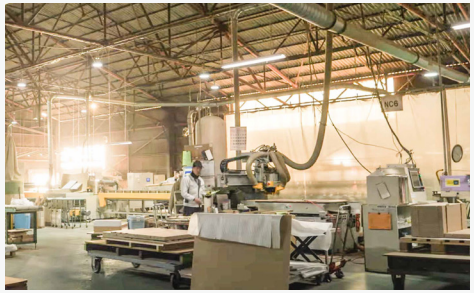
導入のきっかけは集計作業の課題解決。i-Reporterでさらなる顧客満足度の実現を目指す。

代表取締役社長　矢野 太一 氏

弊社では仕事内容が非常に多岐に渡っており、なかなか会社の実績を収集しにくいという課題がありました。現場の一人ひとりがどの作業にどのぐらいの時間がかかったかを手作業で記録し、それを事務所が回収して入力をして…というプロセスで集計を行っていたので非常に精度も低く、入力ミスも起きます。そこを何とかしたいという思いから、i-Reporterを導入しました。

i-Reporter導入後は、これまで15日ほどかかっていたデータ集計作業を、集計やデータの自動化で2〜3分にまで短縮させることに成功しています。今後、i-Reporterから出力したデータを活用し、お客様にさらに喜んでいただける加工や製造方法の提案を目指していきたいと考えています。具体的には、データに基づいて資材発注のプロセスを見直し、現場と事務所間の物理的距離により生じるコミュニケーションの遅延や電話での言い間違い・聞き間違い、加工ミスが発生した際の承認フローの長さ…といった課題を解決し、さらなら顧客満足の実現をしていきます。

現在は手動で行っていることもi-Reporterを使ってDX化することで精度の正しい情報を手に仕入れ、工場の問題点を早くつかむことができるようになります。そうして見つかった問題点をすぐに改善して、また次の生産につなげるというものづくりで、さらにお客様に喜んでいただける会社にしていけたらと思います。



Copyright © 2024 CIMTOPS Corporation.